

中学校第 3 学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 16 ページまであります。
- 3 解答は、全て解答用紙(解答冊子の「国語 B」)に記入してください。
- 4 解答は、HB または B の黒鉛筆(シャープペンシルも可)を使い、**濃く、はつきりと書いてください。**
- 5 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗り潰してください。
- 6 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 7 解答用紙の解答欄は、裏面にもあります。
- 8 調査時間は、45 分間です。
- 9 「国語 B」の解答用紙に、組、出席番号、性別を記入し、マーク欄を黒く塗り潰してください。

問題は、次のページから始まります。

図書委員の早川さんは、皆にもっと本を読んでもらうために、社会で取り組まれている「読書週間」の標語を参考にして標語を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した【早川さんのノート】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【早川さんのノート】

「読書週間」の標語

■ 標語から伝わってくるメッセージと、表現の工夫とその効果について

- ・ ありますか？好きだといえる1冊が：

〈メッセージ〉↓ ・ お気に入りの一冊をもつことは人生を豊かにする。この機会に本をたくさん

読んで好きな一冊を見つけてほしいというメッセージが伝わる。

〈表現の工夫〉 ↓ ・ 呼びかけの形で始めることで、読む人の関心を引いているところがよい。とその効果〉 五七五のリズムも親しみがもてる。

- ・ 風もページをめくる秋

〈メッセージ〉↓ ・ 秋はさわやかな季節なので、たまには快い風の中で本を読み、リラックスし

た時間を過ごしてみようかというメッセージが伝わる。

〈表現の工夫〉 ↓ ・ を使って、情景を豊かに想像できるようにしている。また、体言止めとその効果〉 が使われ、秋が強調されている。

- ・ 本と旅する 本を旅する

〈メッセージ〉↓ × 本と旅したり、本を旅したりするのはよいというメッセージが伝わる。

○ 旅の途中で本を読むのは楽しいことだ。また、旅をしなくても、本を読めば未知の世界を知ることができるというメッセージが伝わる。

〈表現の工夫 ↓ ・ 「本」と「旅する」という言葉のつなげ方を一文字変えて繰り返すことで、
とその効果〉 心地よいリズムが生まれている。

一 【早川さんのノート】の に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 反復法
- 2 対句法
- 3 擬人法
- 4 倒置法

二 早川さんは、【早川さんのノート】の——線部の内容が不十分であると感じたので、~~~~線部のように直しました。早川さんが直すときに注意したこととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語に直接書かれていない作者の思いを想像して書く。
- 2 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語の内容に関連する事柄を様々な方法で調べて書く。
- 3 標語の言葉をそのまま使うのではなく、この標語の優れている点を他の標語と比較して書く。
- 4 標語の言葉をそのまま使うのではなく、これまでに自分が読んだ本の内容と結び付けて書く。

三 早川さんは、次の二つの〈標語〉A、Bを作りました。これらの〈標語〉について、あなたはどのように思いますか。A、Bから一つ選び（どちらの〈標語〉を選んでかまいません。）、選んだ〈標語〉から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉についてのあなたの考えを、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈標語〉

A 心のアンテナ読書で伸ばそう

B その本が未来を示す案内図

条件1 〈メッセージ〉及び〈表現の工夫とその効果〉は、【早川さんのノート】を参考にして具体的に書くこと。

条件2 〈メッセージ〉は、「というメッセージが伝わる。」に続くように書くこと。

条件3 〈メッセージ〉及び〈表現の工夫とその効果〉は、それぞれ四十字以上、六十字以内で書くこと。（文末の「というメッセージが伝わる。」は字数に含みません。）

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

2

次は、接着剤について書かれた【本の一部】と【インターネットの情報の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の一部】

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。

接着する物の表面を

顕微鏡で見ると、

つるつるしているよう

に見える金属でも、そ

の表面には肉眼では見

えない凹凸があること

が分かります。そこに

接着剤を塗ると、凹凸

のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果と

いいます。アンカーとは船の錨いかりのことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に

例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態で物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、

物と物とをくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤(注1)を含んでいて、それらが蒸発することで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側ののり



の部分は、ぬらすことで液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。また、アイロンでくつつけるタイプのアプリケ(注2)の場合は、固まっていた接着剤がアイロンの熱によって溶けていったん液体になり、それが冷えて固体になることでくつつきます。このように、熱を加えて接着剤を一度溶かし、その後、液体が冷えて固まることでくつつく接着剤をホットメルト接着剤といいます。他にも、液体が化学変化を起こして固体になるものがあります。例えば、瞬間接着剤はその一例です。物の表面には、乾いているように見えてもわずかに水分が含まれています。また、空気中にも水分が含まれています。瞬間接着剤は、それらの水分に反応し、非常に速いスピードで固体に変化するのです。

最後に、接着剤がどのような場面で使用されているか考えてみましょう。

接着剤の用途を調べると、思いもよらないものに接着剤が使用されていることに気がきます。例えば、飛行機やスペースシャトルの機体の組み立てには接着剤を使用しています。電子部品を作る際にも、金属の粉などを混ぜた接着剤を使用することがあります。また、つり橋の中には、橋を支えているロープを、コンクリートでできた土台の中に接着剤で固定している橋もあります。このように、現代において接着剤は、様々な場面で使用されています。

(注1) 溶剤＝物質を溶かすのに用いる液体状のもの。

(注2) アプリケ＝布地の上に、別に切り抜いた布や革を縫い付けたリ、貼り付けたりする手芸。また、その付けられたもの。

※ 【インターネットの情報の一部】は、次のページにあります。

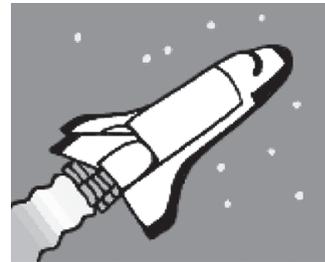
■飛行機

飛行機の機体を組み立てるときにも接着剤を使います。以前はリベット（びょう）でとめていましたが、接着剤を利用することで空気抵抗が少なく、機体が軽くなるので、速度性能や燃費が向上しました。また、リベットは点で固定していますが、接着剤でとめると、面で固定できるので、強度を増すことができます。



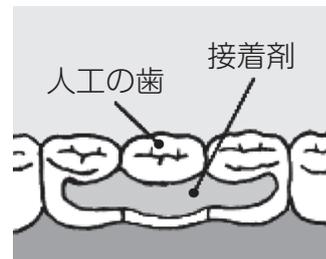
■スペースシャトル

スペースシャトルの表面にはたくさんのタイルが接着剤でつけられています。大気圏に突入するときのまさつねつと宇宙空間での太陽熱にたえるために、スペースシャトルの材料にはタイルが使われています。そのタイルが割れたり、はがれたりしないように、弾力があり、1500℃の高温にもたえるすぐれた接着剤が使われています。



■医療用接着剤

歯医者さんで歯につめものをしたり、人工の歯をつけたりするときには医療用の接着剤を使います。また、骨をつなげたり、食道や胃、血管などをつなぎあわせるときに使われる接着剤も開発されています。



■食品の容器

牛乳の紙パックは熱と圧力を加えてくっつけています。プリンやゼリーのふたのフィルムは、しっかりと密閉し、食べるときには簡単にはがせるような接着剤が使われています。



一 【本の一部】と【インターネットの情報の一部】の内容を比較したときの説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、【本の一部】では物をくっつける過程を述べ、【インターネットの情報の一部】では図を用いて具体的に説明している。
- 2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外なものに使われていることを述べ、【インターネットの情報の一部】では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。
- 3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、【本の一部】では接着剤の種類ごとに述べ、【インターネットの情報の一部】では代表的な例を取り上げて説明している。
- 4 簡単にはがせる接着剤について、【本の一部】では簡単にはがれる仕組みを図を用いて説明し、【インターネットの情報の一部】ではその接着剤を利用した商品を紹介している。

二 次の疑問点のうち、【本の一部】や【インターネットの情報の一部】を使って、答えが得られるものはどれですか。次の1から5までのうち、適切なものを二つ選びなさい。

- 1 ガラスとゴムを接着するとき、どのようなことに気を付けたらよいか。
- 2 アップリケをくつつけるとき、アイロンは何度にすればよいか。
- 3 人工の歯をつける接着剤と血管をつなぎあわせる接着剤の違いは何か。
- 4 飛行機を組み立てるときに接着剤を使うと、どのような利点があるか。
- 5 瞬間接着剤が非常に速いスピードで物を接着することができるのはなぜか。

三 封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておく、きれいにはがすことができますようになります。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

3

落語は、一人の演者が、座ったまま何人も登場人物を演じ分けて物語を表現する日本の伝統的な芸能です。次の【落語を紹介する本の一部】、【落語「目黒のさんま」のあらすじ】、【落語「目黒のさんま」の最後の部分】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【落語を紹介する本の一部】

■落語の構成■ 次の三つの要素で構成されている。

〔まくら〕 本題に入る前の導入部分。本題に関する短い話などで聞く人を引き付ける。

〔本題〕 話の中心部分。「地」と呼ばれるナレーションを挟みながら、主に登場人物の会話で話を進める。

〔落ち〕 話の最後の部分で、聞く人を笑わせたり納得させたりする。話がストンと落ちるように結末を迎えるので「落ち」という。

■人物の演じ分け■ 一人で演じるので、独特の工夫がある。

客席から見て、舞台の右の方を上手^{かみて}、左の方を下^{しもて}手という。会話の場面では顔を上手や下手に向けることで、登場人物の上下関係や位置関係を表す。顔の向きの他、言葉遣いや口調、仕草を変えることで、何人も登場人物を表現する。



〈下手〉

相手の立場が下なら
下手に向かって話す。



〈上手〉

相手の立場が上なら
上手に向かって話す。

【落語「目黒のさんま」のあらすじ】

ある秋の日、江戸に住む殿さまが、家来を連れて、郊外の目黒まで馬に乗って出掛けました。殿さまが空腹を感じ出した頃、どこからか魚を焼くにおいが漂ってきます。殿さまは、このよいにおいが、「さんま」という魚を焼くにおいだと知り、さんまが食べたくてたまらなくなりました。

殿さまは、家来たちに「早速さんまを用意せよ。」と言い付けました。しかし、このあたりには魚屋も見当たらないため、さんまはすぐには手に入りません。困った家来たちは、さんまを焼いていた農家を訪ね、脂あぶらののった焼き立てのさんまを譲ってくれるように頼みますが断られます。そのやりとりを聞いていた殿さまは、自らお願いし、ようやく、生まれて初めてのさんまを召し上がります。空腹のところへもってきて、匂のさんまですから、そのおいしさに殿さまは大喜びしました。

屋敷やしきに戻ってからも、殿さまは目黒で食べたさんまの味が忘れられません。しかし、殿さまの食事に庶民の食べるさんまなど出てくるはずもなく、さんまへの思いは日に日に募る一方です。

ある日、殿さまは、親戚しんせきの家に出掛けました。すると、「何でもお好みのお料理をお申し付けください。」とのことでしたので、殿さまは、待つてましたとばかりに、「さんまが食べたい。」とおっしゃいました。親戚の家の家来たちは、早速（注1）日本橋の魚河岸うおがしから最も上等なさんまを取り寄せました。しかし、このような脂の多い魚を差し上げて、もしもお体にさわっては一大事と心配した家来たちは、十分に蒸して、小骨は毛抜きで抜いて、さんまのだし（注2）がらみみたいなのをこしらえました。

（注1） 日本橋の魚河岸うおがしは当時、江戸の日本橋には大きな魚市場があり、新鮮な魚が集まっていた。

（注2） だしがらだしがらはだし汁をとったあとのかす。

※ 話は、このあとの【落語「目黒のさんま」の最後の部分】（次のページ）に続きます。



【落語「目黒のさんま」の最後の部分】

① 「殿、ご注文のさんまでございます。なにとぞご賞味くださいませ」

「なに、これがさんまと申すか。ばかに白いではないか。まちがいではないのか？ たしか、もっと黒くこげておったはずじゃが……」

② 「いいえ、さんまに相違ございません」

「さようか、どれどれ……」

殿さまが、箸でおとりになると、ぷーんとかすかにさんまのおいがしておりますから、

「うーん、このにおいはまさしくさんまじゃ。これ、さんまよ、恋しかったぞ」

殿さま、(注3)感涙にむせんで「と口めしあがったのですが、蒸して、脂がぬいてあるばさばさのさんまですから、どうしたつておいしいはずはありません。」

「これがさんまか？」

(注4)「御意」

「ふーん……して、このさんま、いずれよりとりよせたのじゃ？」

③ 「ははあ、日本橋魚河岸にござります」

「あつ、それはいかん。さんまは目黒にかぎる」

(興津要『古典落語』による。)

(注3) 感涙にむせぶ＝うれし涙で声をつまらせる。

(注4) 御意＝そのとおりです。

一 ――線部①「なに、これがさんまと申すか。」――線部②「いいえ、さんまに相違ございません」とありますが、この部分を落語で演じる場合、演者はそれぞれ、顔をどちらの方向に向けて話しますか。【落語を紹介する本の一部】を参考にして、次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ①上手 ②上手
- 2 ①上手 ②下手
- 3 ①下手 ②上手
- 4 ①下手 ②下手

二 ――線部③「あつ、それはいかん。さんまは目黒にかぎる」とありますが、この部分が表す殿さまの姿として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 おいしくないさんまでも家来のためを思っておいしいふりをする、優しい殿さまの姿。
- 2 目黒でおいしいさんまがとれることを知らない家来に比べ、賢い殿さまの姿。
- 3 ずっと食べたかったさんまをやつと食べることができて、喜んでいる殿さまの姿。
- 4 目黒がおいしいさんまのとれるところだと思ひ込んでいる、世間知らずな殿さまの姿。

三 〰〰線部「これがさんまか？」とありますが、あなたならどのように演じますか。次の〈演じ方〉のA、Bから一つ選び（どちらの〈演じ方〉を選んでかまいません。）、なぜそのように演じるのか、あなたの考えを、あとの**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈演じ方〉

- A 家来を責めるように演じる。
B 家来に問いかけるように演じる。

条件1 このように言った殿さまの気持ちを想像して書くこと。なお、そのように想像した根拠を、**【落語「目黒のさんま」のあらすじ**】や**【落語「目黒のさんま」の最後の部分**】から引用したり要約したりして示すこと。

条件2 五十字以上、八十字以内で書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

これで、国語Bの問題は終わりです。

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査
平成 26 年 4 月 文部科学省